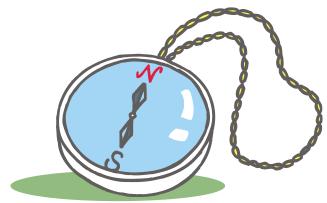


羅針盤



第**24**号

令和5年11月13日(月)

◆ 大きな耳 小さな口 優しい目

今月初めに実施された文化発表会では、吹奏楽部の素晴らしい演奏をはじめとして、合唱コンクールで優秀な成績を収めた各学年の代表クラスの発表や、1・2年生の学年発表、そして、3年生の舞台発表と何れの発表も見ごたえのあるもので、特に3年生の舞台発表は創意工夫がなされた素晴らしいものでした。自己表現するための場面設定として、文化発表会という機会が持てたことは、今後の様々な活動でも、それぞれが自信を持って取り組むことができると確信しています。さて、自己表現をしっかりと行うためには、誰もが「コミュニケーション能力」を培っておくことが大前提となるはずです。その「コミュニケーション」を養っていくために最も必要とされる手段は、お互いの意思疎通のために日頃から行っている「会話」であることに間違いありません。自ら発言し、相手の発言を聞くことで成立する「会話」、これは言葉のキャッチボールであり、相手が伝えたい内容をしっかりと理解したうえで、自分が伝えたい内容ができるだけわかりやすく表現して投げかけることで成立するものであり、自分自身の思い込みで相手の話を理解したり、一方的に自分の意見だけを伝えることでは会話が成り立つことはなく、このように会話が成立しないことを皮肉って言葉のドッジボールと呼ぶ人もいるそうです。つまりは、自分勝手な言葉のやりとりのことです。人の付き合い方を表す言葉に、「大きな耳、小さな口、優しい目」というものがあります。「大きな耳」というのは、まずは人の話をしっかりと聞きなさいということです。「小さな口」というのは、自分の意見を言い過ぎないということです。なぜ私たち人間には口が一つで、耳が二つあるのかと疑問に思ったことはありませんか。耳が二つあるのは口の二倍の働きが必要だから。つまり、話すことの二倍人の話を聞きなさいということを意味しているのではないでしょうか。人の話を聞かずに、自分の主張ばかりしていてはいけません。自分の意見を理解してほしいときこそ、口が一つで耳が二つあることを思い出してください。そして、最後の「優しい目」というのは、目配りや気配りができるということです。話している相手の気持ちを考えながら会話をするということが何よりも大切なことではないでしょうか。自分の心を広く優しくしている状態を「優しい目」という言葉で表しています。人の「コミュニケーション」では、是非とも「大きな耳、小さな口、優しい目」を心掛けてほしいと思います。



◆ 物思いにふける季節

11月も半ばとなり、紅葉の美しい季節となりました。陽の光も和らぐこの季節は、静かに物思いにふけるのに最も適した季節ではないでしょうか。一日の時間は限られていますが、自分自身の持っている想像力を豊かにするためには、ときには時間を忘れて、豊かな自然を求めて野山へ足を運んで森林浴をしてみたり、公園で読書をしてみたりするのもいいことかもしれません。日常とは少し違う空間を求めてることで、日頃は気づきもしなかったことに感動を覚えたり、いつも見ている景色が違ってみえてくることもあるはずです。

